

2458

307
82

尾張名陽圖會

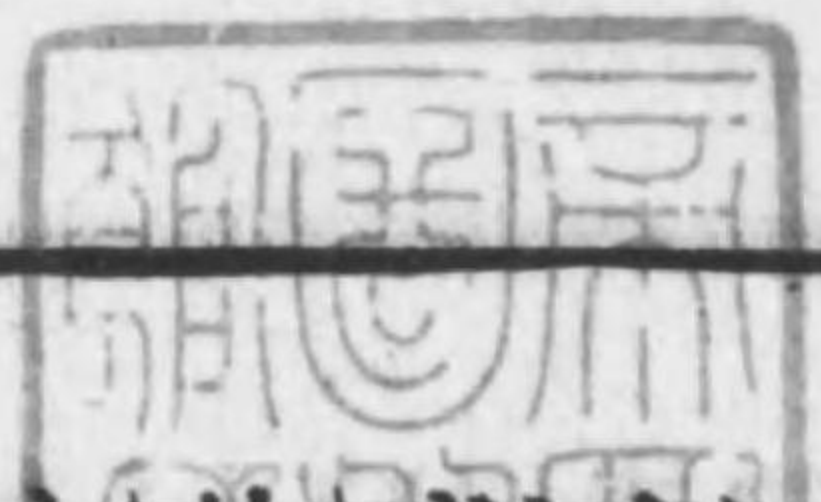
七



始



尾張名陽圖會卷之七目錄



巾下
新馬場
祝の井
小松町
戸田町
光松跡
竹嶋天満宮
上岩
名古屋木綿
観音堂
周泉寺
常真橋

埋御門
長吹
堀江町
堀詰町
蛭屋町
山神社
真西寺
五平藏町
名古屋元結
御池跡
藤池
二国橋



三右門 荏店
 天王社
 八幡宮
 西源寺
 琵琶萬橋 同所由來
 慶榮寺
 信行院
 天中和尚名畫
 光明院
 弁天社
 納屋町
 衿宜町
 名古屋氏棧

榮町
 清法院
 清音寺
 金剛寺
 川並裏通
 圓頓寺
 雲門寺跡
 浅間社
 神明宮
 淨信寺
 葭町
 柳の里
 御藏

三田橋
 花の木
 関戸道心堂
 光橋
 山本院
 江川町
 法藏寺
 正覺寺
 海福寺 林真院
 養照寺
 本龍寺 富士石
 押切
 黄金松

紙張橋
 小川寺跡
 覺風寺 宝色印塔圖
 竜池院跡
 浅間社
 樽屋町
 西願寺
 長盛院跡
 寶周寺
 福滿寺 古野圖
 兒玉村觀音寺
 丹羽立席左門宅跡
 東岸居士橋

戸田道
 蓮花寺
 名水井
 泥江縣神社 同 蚊蛇説
 考六櫻古覽
 東光寺
 忠臣成下女話
 花屋町
 妙行寺
 山伏大仙坊説
 光明寺 吟宗院十五堂
 壽經寺
 西光院

柳街道
 八角堂
 長圖寺
 永林寺
 天王崎神社
 大林寺
 隆正寺
 觀音院
 千手院
 石切町
 養林寺
 誓願寺
 法應寺

尋盛寺
 瑞法寺
 徳林寺
 清安寺
 聖運寺
 名物綱糸
 日置邑
 山の神
 白河橋
 乙名つが
 北組
 織田掃部次第宅跡
 敬圓寺

香樹院
 法藏寺
 天道宮
 大乘院 古舞臺
 堀川花盛
 名物茂
 白山権現
 鷲鳥谷
 七志水川
 更屋輔
 虎薬師
 轉江古跡
 丹波助太郎説

法然寺
觀福寺
念佛坂
惠比須町
高野寺
法澤寺
市部堤
芝居地
東本願寺掛所
笈堂跡
既野
新宮稻荷
川口屋館店

影性寺
金塚神明宮
万福寺
日置神社
東輪寺
無三殿扒
梅屋輔
崇覺寺
古渡山原
金神塚
名古屋三左門出生之地
大仙寺
善正寺

洞仙寺
愛知觀音跡
傳昌寺
釈迦堂
鶯森
直禮森
休玄寺
古渡橋
山伏塚
御塚
泰雲寺
道場法師孫大力女傳
尾頭次郎義次塚同傳

大江川
庁端塚
東海寺
神森神社
靈仙寺
妙住寺
腫森
金塚
景清菽
元興寺
道場法師傳
久利妻說
新橋

巾下
埋竹門

春のちみめ買ふ日我府
城巾下の埋竹門上波菜の日大坂の
損報有下より知りては使者
を遣はして見せしむるいと目物な
りしと云ふも老の物なり
巾下
種子も天の羽を矢とて
射せしむるは矢の影もさるなり
利と下より又一説は辰の口より
上をさる下より辰の口と云ふは
里と云ふ下と云ふはさるなり
巾下の地はひらき城のさるなり
すまふなりはさるの下に埋
さるなりはさるの下に埋
さるなりはさるの下に埋



△名古屋本錦
 名物あり海軍下
 上宿也をうらむ

△あつたま白
 和歌部領便

△名古屋本錦の

△福ろうも

△才女様としての
 独身を
 うらむ

△名古屋九能
 こゝも名物あり事おそろしきなり
 けやと思ひけし遊三不三の久あて白く



△親音寺
 此の地物あり

△所地須の海
 此の地物あり

△万礼山園泉寺
 此の地物あり

△秋葉権記
 此の地物あり

△國泉寺
 此の地物あり

△三田橋
 美濃河津北の山あり

△紙海橋三田橋の南あり
 此の地物あり

△花の本
 此の地物あり

△田口山小川まの森
 此の地物あり

△長流り
 此の地物あり

△松葉寺
 此の地物あり

△三田橋
 此の地物あり

△紙海橋
 此の地物あり

△花の本
 此の地物あり

△田口山
 此の地物あり

△國泉寺
 此の地物あり

△秋葉権記
 此の地物あり

△万礼山
 此の地物あり

△所地須
 此の地物あり

△親音寺
 此の地物あり

虎薬師

覺鳳寺

宝蓮卯塔

謹奉 建立
寶蓮卯塔
應永十一年
二月十五日
願主 源方 敬
得阿彌陀佛
教白



同表

敬奉 修神
寶蓮卯塔
享保十一年
臘月初八日
願主 藤成峰
源方 敬
釋密園

光り橋

光り橋の御供所を造りし事
如く由緒あり 後深之を以て修め
たに以て名を置か

光り橋の御供所

不之を如何のしちてや
けりし事ありしに
あけぬるもけりし事あり
人々之を以て名を置か
のちありし也

龍田院

光り橋



△玉峯山海福寺

用山並傳和尙
本寺親如佛
上より山登階内取立ちり

○林貞院

此寺馬氏親音ハ朝打助ナリ本寺ナリテ
故年中知土の家老本造ハ其村の
持成ナリ本造氏後孫の嫡子大権織田
在維々三ノ久織田家後孫の嫡子流人トシ
中下持成西ノ飛良其流南流ハ竹屋トシ
刻多知多トシ南流ハ柳多入宛永の以ノ長



△高木山寶貝園寺湯列

本寺河津陀傳彦像
高木元ハ河津陀寺トシ上宛永元由の以進
塩野喜ハ元其好その地ニテ法堂破換
延徳後外也
相懸院殿の中妹安大姉權模の堂宇を再建
御羽取岩倉村柳寺三世湯列上人を
招請而用山トシ之柳ニ依園寺と改む
舊号トシ高木町ト改む
○奇方天
○親音堂



△茶町

茶町の町町ウケて江戸の町に石の道
茶の葉一葉をてまきしりて茶の葉とんり

△天王社

天王社
茶神津島牛の天王社を時代不知
茶村のうら六石明神の神社のうら天王を
茶に掛りたるまじ



△修驗清法院

貞享年中、中村の地より引くる
天の北より三丁の地より引くる
縮生、尾山、大住寺にて
天名のさあし、おき、お申のま
修驗して、おき、お申のま
茶を三年、大住寺、おき、お申のま
茶を三年、大住寺、おき、お申のま
茶を三年、大住寺、おき、お申のま

○保童園
おき、お申のま
茶を三年、大住寺、おき、お申のま



琵琶芭馬之由来

治承三年十一月大政大臣
 師長公尾張國熱田の東
 井戸田に在りて洛の
 野に遊す時余はあま
 はる里より所由送りて表石
 思ひけんあまをよ
 めひる琵琶を記念す
 老の残りせむよ
 愛慕の情正しく世を憂
 ことと思ひつり
 巴の俗にまらぐまうけて三途川
 と琵琶にまらぐまうけて三途川
 河工身を操むあまら
 ば好願の者有まがら
 ぬす琵琶とそらに候と
 夫よりけ所を琵琶芭馬と名
 りたり
 大君御集まひ文
 成るばす師長公のまらぐま
 あり



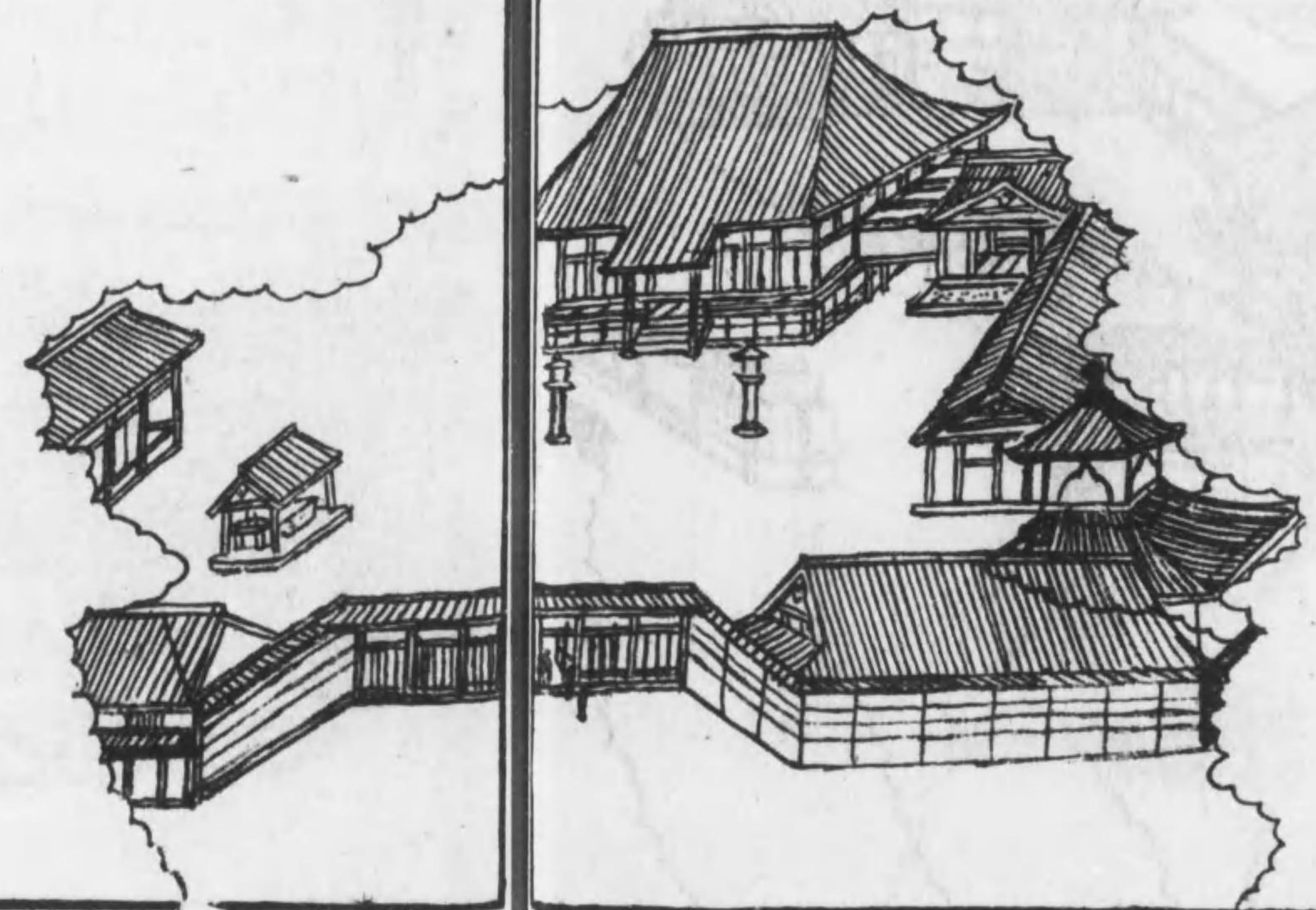
琵琶の由来
 琵琶の由来は、大政大臣師長公が、尾張國熱田の東に井戸田に在りて洛の野に遊す時、余はあまはる里より所由送りて表石思ひけんあまをよめひる琵琶を記念す。老の残りせむよ愛慕の情正しく世を憂ことと思ひつり。巴の俗にまらぐまうけて三途川と琵琶にまらぐまうけて三途川河工身を操むあまらば好願の者有まがらぬす琵琶とそらに候と。夫よりけ所を琵琶芭馬と名りたり。大君御集まひ文成るばす師長公のまらぐまあり。

琵琶の由来 日洞上人



ほくちうね
 人のあやと
 まらぐま
 まらぐま

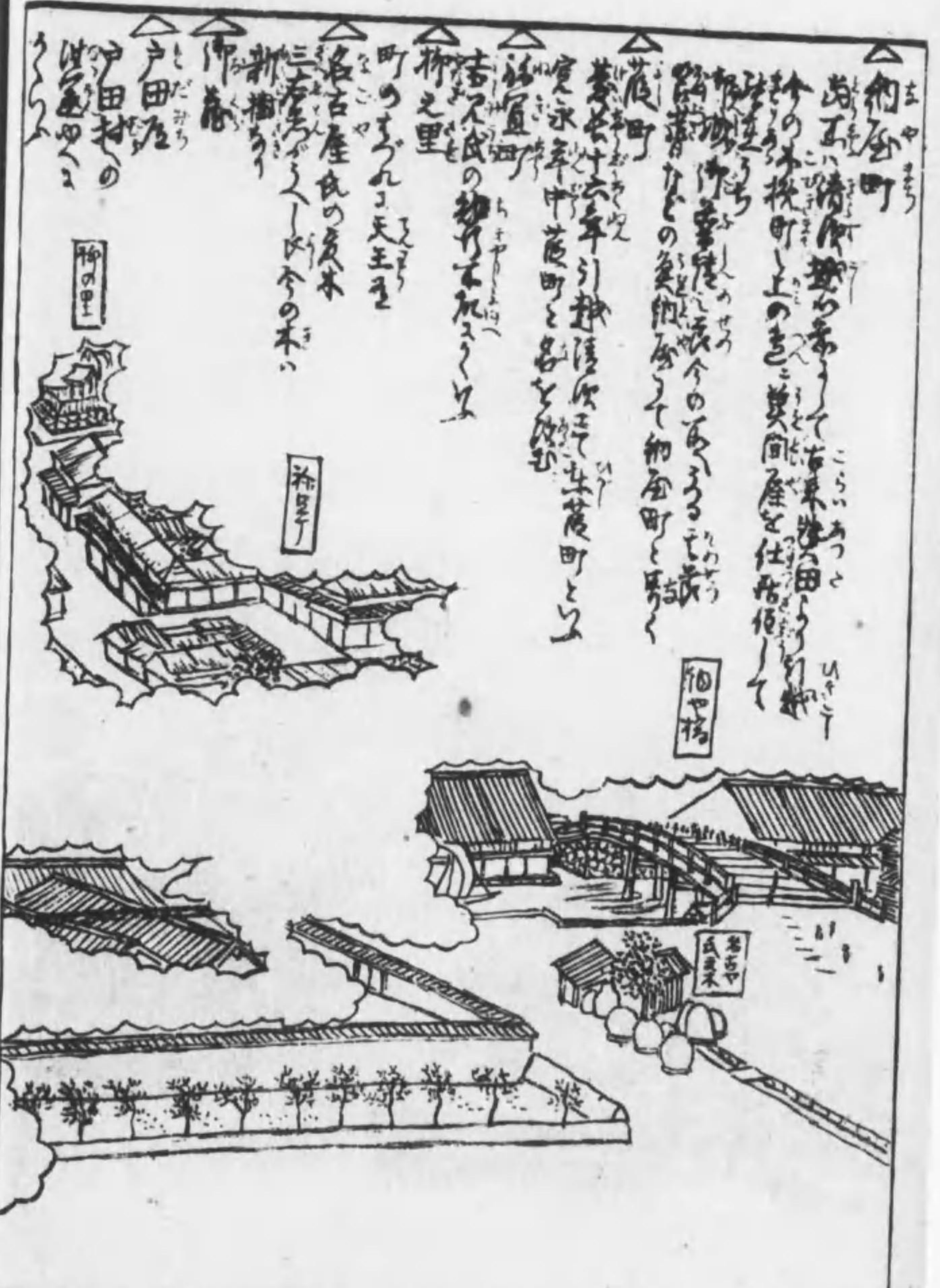
△ 浪江山 信行院
 本山 河治郡 立寄 法皇上人
 當寺 古くは 佛堂 寺町 ありて
 順正寺とて 東院 ありしが 故なく
 正保下 春田山 建立
 ○ 茶所





新橋
 比田南
 金袋山蓮苑寺
 三つを併せて三つ町と
 ひろの各と
 寛保年中に新橋と
 三つを併せて三つ町と
 ひろの各と
 寛保年中に新橋と

三つを併せて三つ町と
 ひろの各と
 寛保年中に新橋と
 三つを併せて三つ町と
 ひろの各と
 寛保年中に新橋と



新橋
 比田南
 金袋山蓮苑寺
 三つを併せて三つ町と
 ひろの各と
 寛保年中に新橋と

三つを併せて三つ町と
 ひろの各と
 寛保年中に新橋と
 三つを併せて三つ町と
 ひろの各と
 寛保年中に新橋と

△ 八南堂法華寺

用山玄門初高申奥用山後唐院信田指指古
 御下六向ニテ全後頼時氏貞享二年法極越の
 カタリテ蘇東中ハハ東町の北ニ引ル。信田屋敷町ニ易比
 野田屋敷院三十六世信海院
 七世お信信正再奥助カト
 以以上野の末とありて天
 律の遺場とありあり
 以八南堂ハ
 所津内所深井の
 寺ニシヨシ
 初信信正
 御下六向ニテ全後頼時氏貞享二年法極越の
 カタリテ蘇東中ハハ東町の北ニ引ル。信田屋敷町ニ易比
 野田屋敷院三十六世信海院
 七世お信信正再奥助カト
 以以上野の末とありて天
 律の遺場とありあり
 以八南堂ハ
 所津内所深井の
 寺ニシヨシ
 初信信正



八南堂

△ 名水井
 廣井天王みだしと
 碑石とあり

御川信重
 とし道

旧方八方
 廣井地
 八南堂を
 中堂よ

名水井

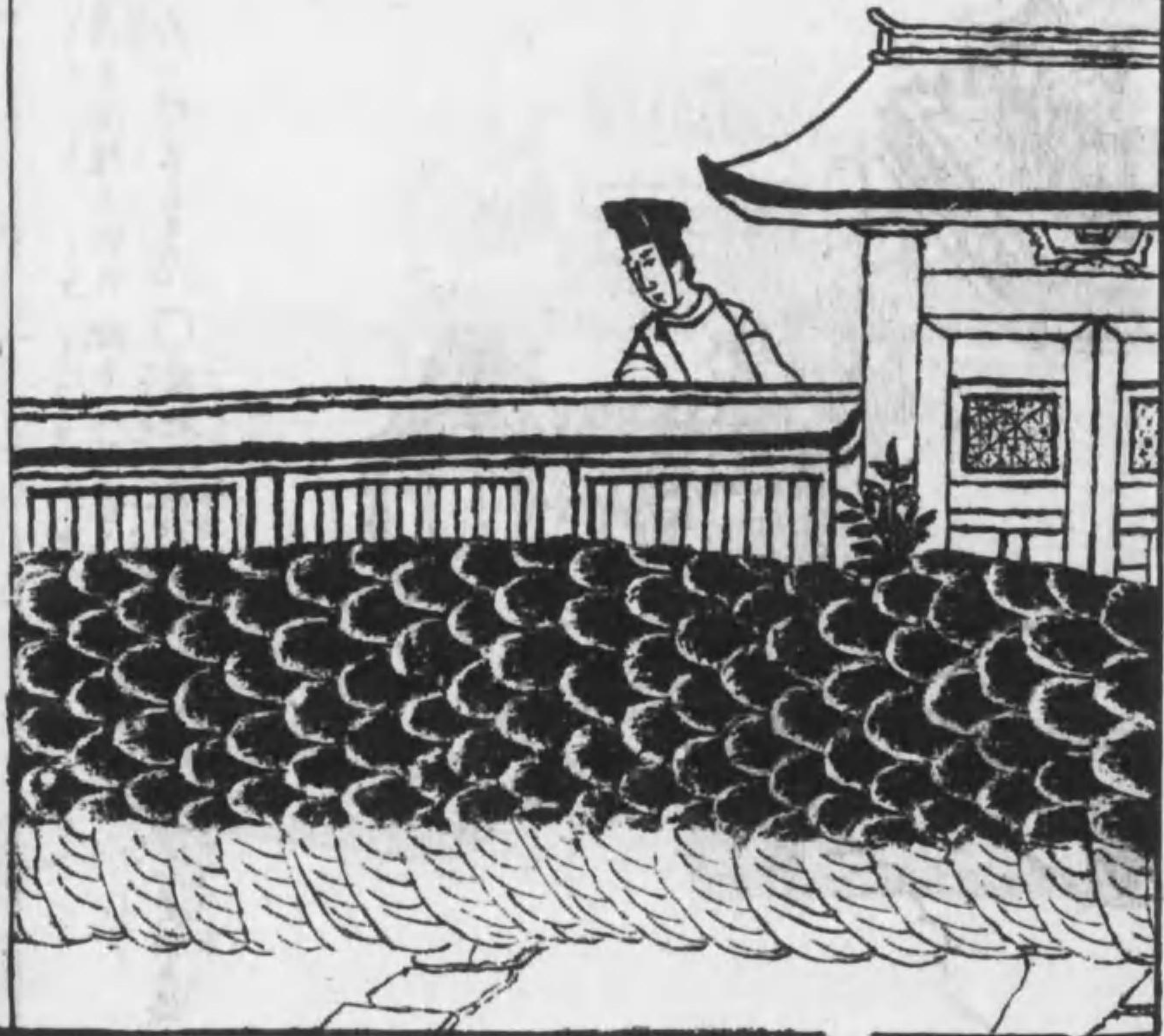


長門寺
 山崎祐春坊
 此寺古くは
 聖徳太子の
 御願所と
 傳へられ
 今も古
 刹の遺蹟
 ありて
 今も
 僧侶の
 住居あり
 たり



唐井八幡社境内塔場の後

このののちや社人
 神事なまはつて
 其のまはつて
 足さし大いなる
 社をいふ
 是れいふ
 早速家小か
 早もいふ
 さて
 て
 今
 此
 たり
 あ
 こ

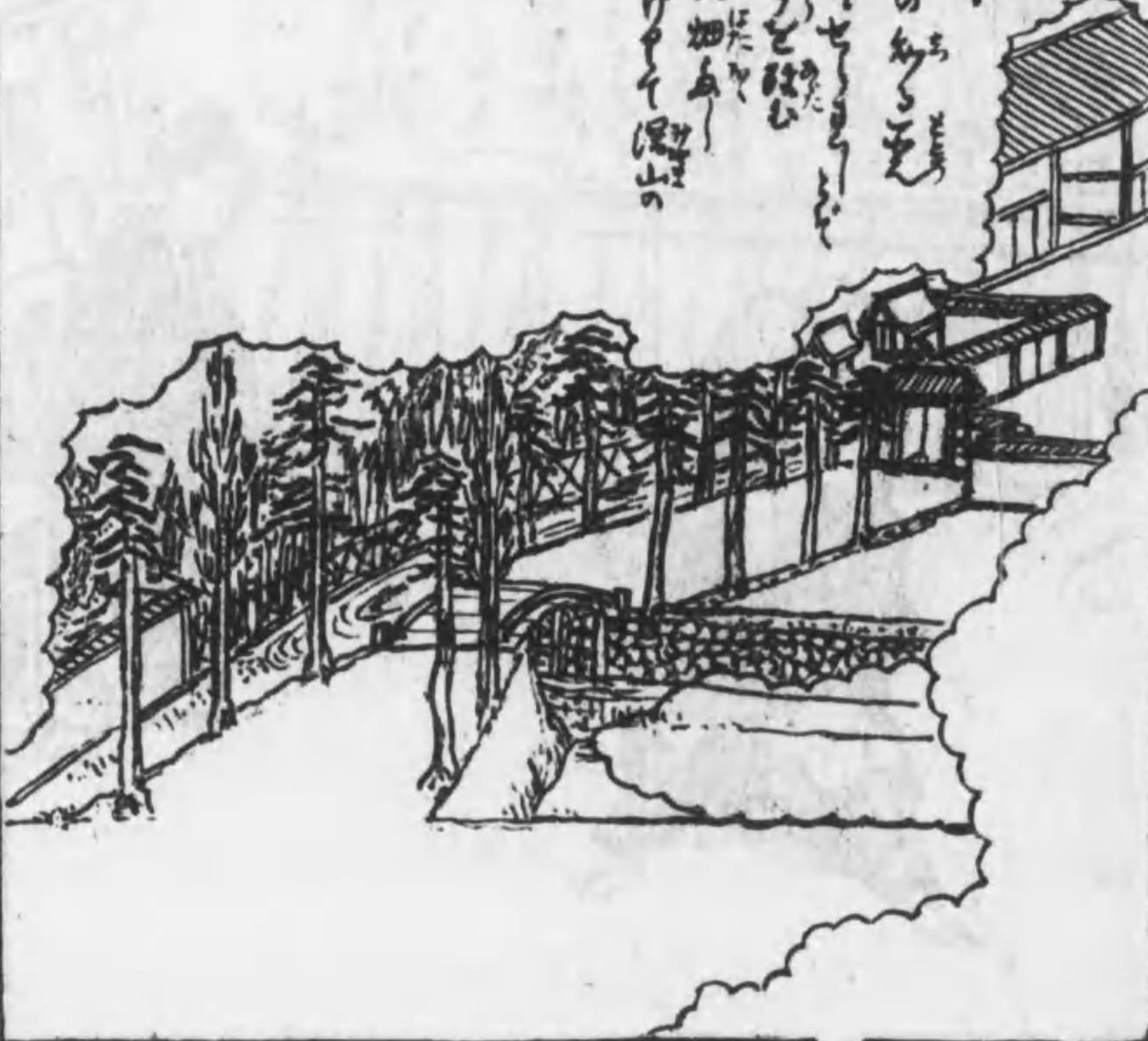


曹溪山
大林寺

本寺
開山大師
勅諭佛果日照
禪師又擅世
大林寺殿宇極宏
西山瀧河鎮善觀
宛永五年開闢
宛永十一年宛文七
年
上
瀧河豊前守忠征
尾長本合村
宛永五年開闢
宛永十一年宛文七
年
上
瀧河豊前守忠征
尾長本合村
宛永五年開闢
宛永十一年宛文七
年
上



曹溪一箇に仕へ唐徒
妙に教を伝へる
中に坊舎は青の時本城より西
氏の下の板路の曲をせよ人の知る
寺にゆく一箇曹溪とてし
古の福寿山ともいへり中興山号を
相伝境自を度々しうららの方に如
門を六曹河のどく板敷きしるけり
と



忠長ある下女
 依足早の下なるま
 屋敷おまはるま
 ちさすけあまの
 うまくあまの
 秋時下女二人とありていづれを
 女とまらば内の下女おとせ
 ちて曹ののりありか
 そくておとせ
 沖くおとせ
 下女二人あるま
 の下女を
 忽ちおとせ
 けりけり



△政山隆正時

校言所記
 用山長林六世中真
 相應院廣山妹隆正
 山下大相寺氏勝室代
 承烈二年に同基
 寺言上人を
 十一面觀音堂
 花屋町



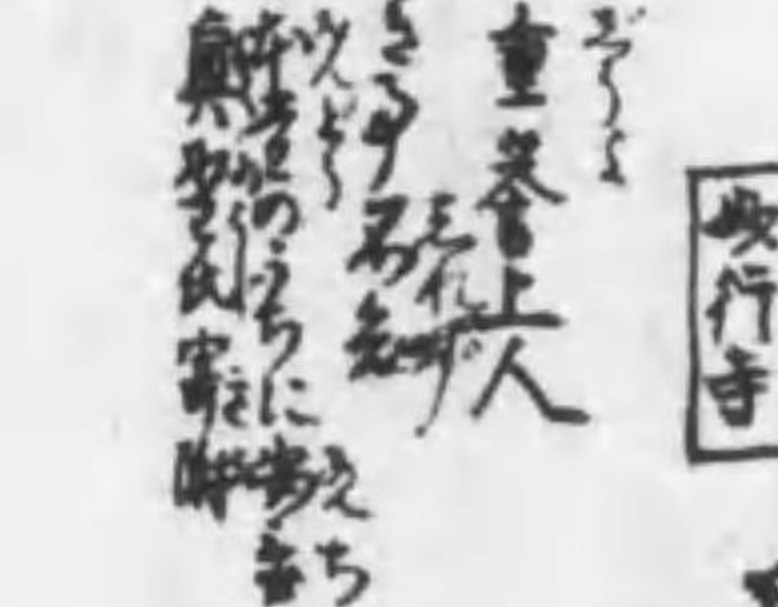
△**龍徳院**
修繕者



△**廣井山坂行寺**
同山信願院日誦聖人



△**養眼山系山院**
本寺より手親善行基作同山重長上人
新寺開基より
松前社 天王社



山伏大仙坊

和信十郎城守清
御城守善清の弟山伏行にて
大仙坊より山伏あるをうらな
おまもり奉も坊者先に進
かれひけ大仙坊とてい
たゆりたる山伏大仙坊は縁
長者町の下ゆりたる
御城守の弟山伏小
徳天と奉も坊者先に進



終南山光明寺悟真院

本寺所由陀仏
 開山港岩岩井故順上人証長
 岩岩中村の秀氏性ハ不知開山
 岩蓮を師とて後ちて岩岩
 功績リ古今に譽るく師の徳
 人皇百二代持光院の所由
 唐永正六年中村の岩蓮の
 回跡を同一寺と建創し
 悟真院光明寺と号す
 此の春日井郡平田村に
 うつてを治候にうつ
 方二世貞徳上人の時
 ありしに此の地は
 十世中興大徳上人
 今の本堂を建立候
 為中興



○十王堂地蔵寺

観音大士は世古海中より
 上り降りて此の地を治り
 此を教清改吟家と号す
 傍光明寺の境内にあり
 寺時より吟家院と号し
 寺中より天香吟家房と
 以上は此の地蔵寺の
 最の上人形三日月に再興
 此是地蔵寺なる



△石切町石切石塔寺

石切町石切石塔寺

△三寶山養林寺無量院

本寺所法陀佛 德摩尾山
 塔の本寺表書云々
 開山此寺賜沙門天蓮社
 知譽言安長上人 永源
 當山養林寺殿
 養雄玄親大居士
 信長公家尾林依通守
 教智信勝 永源天年
 當山州創ん
 方丈内佛行法陀佛
 源義朝云守年々
 同山安長上人 山和思院
 凡八世の位侶ん信長公家依通守
 不とんて永源元年 法別改年
 陽長有之を可基とて一寺と建立
 寺は清和のころ 永源公の中當地
 各古刹持子本町 柳下より 法陀佛



○寺家持取院

開基 養林寺六世古堂
 寶印上人 正保二年 元也也

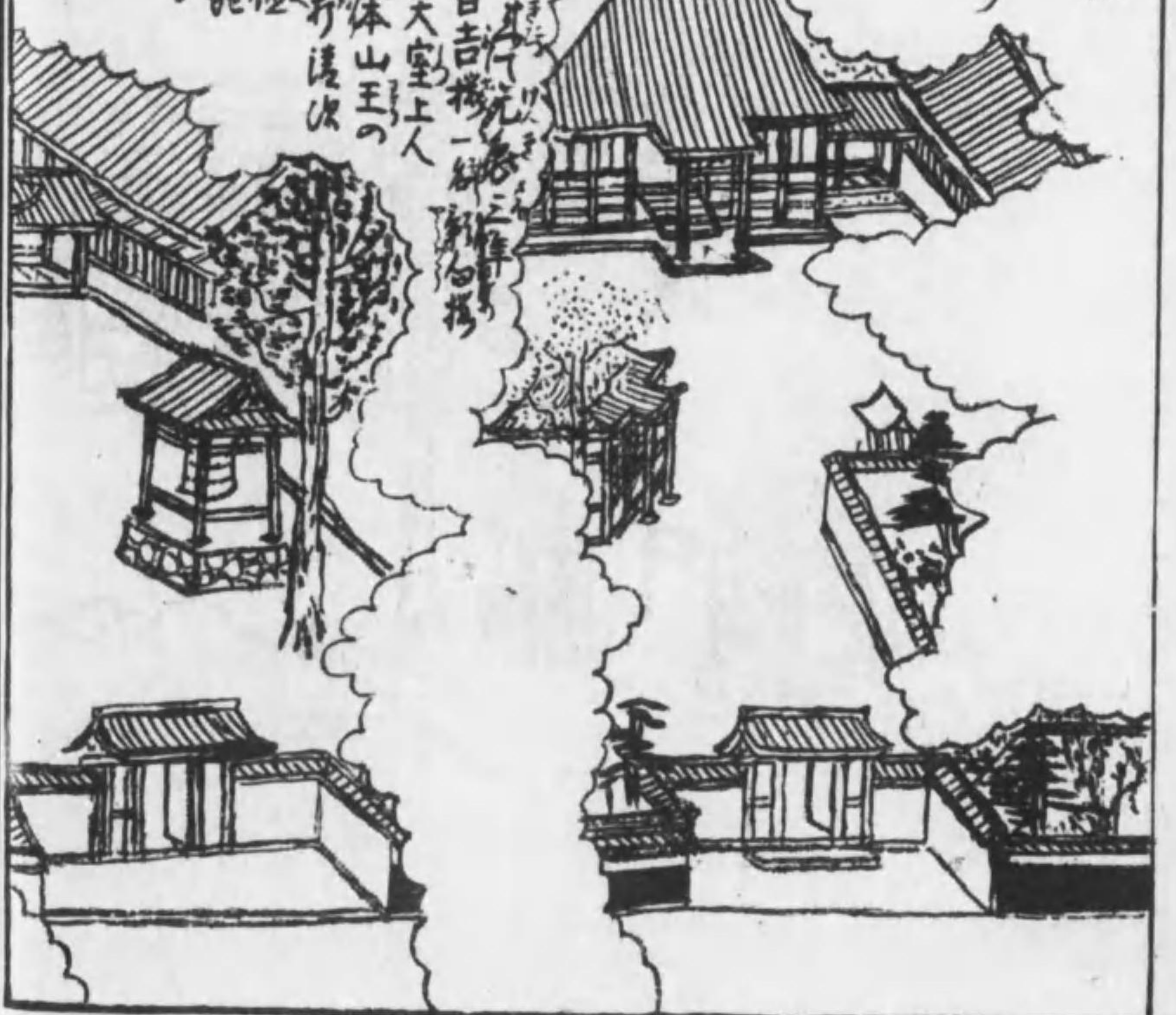
△無量山安經寺通院

此寺の老なる一了了ん
 安經所法陀佛 惠心修都作
 開山正蓮社 授米上人 湖公大和南
 清源越ちるれど 〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇天相
 〇〇〇〇〇〇
 〇親音堂



△法善山新雲龍寺揚文院

開基八皇七十六代近江院の御時久敷二年十月八日
 永隆上人服本永隆上人
 尚列中流郡古時の人
 其創年久しく記載し後大凡
 右の意本意に依りて記し
 清和天皇御時
 比叡山に学業積り師匠の
 社のごまに三尺余あり
 比叡山に学業積り師匠の
 社のごまに三尺余あり
 比叡山に学業積り師匠の
 社のごまに三尺余あり



△永照山西光院護念寺

本寺は西光院の護念上人の
 用山空服久松上人の
 永正大永の間に
 城內南西三井内
 故上人養長九年
 釋子一代持相の
 永祿年中
 公宣を音楽殿舟瀬
 時宝永七年
 春と見るあり
 庭神ありと名
 地蔵
 小聖堂の地



○寺中
 宝隆院
 清光院
 仙去院

△林光山
法慶寺

△開山空寂
蓮宮大

△五基堂山石盛寺竹林院
かき河法池仙開山慶譽祐仙人
著の清次一寺を造んと同域下に
ありていふある文段の中に建ま
りしつゝまゝありて今の地なり
と相中興三世傳述社を觀物上人あり

△塔以庚申院 五大力菩薩
開山蓮譽言説花房いかにある盛持念仏
清次より此地に二つに流りては行なりと
再興い

△大悲山香樹院
本寺觀世音 三世中興説法香沢和

△教管山瑞宝寺觀仙院
本寺河法池仙開山正蓮社皇譽玄治上人
本山より山の名を傳ふ中興三世大蓮社教譽
河上人一傳湛澄大和而ける清次に於て文禄年中
建まると傳ふ今の地なりとあり

△万徳山法華寺觀中院
かき河法池仙開山清次にて天文の中建ま
開山光譽皇譽上人未詳の本山より山の名を
傳ふ三世中興辨譽雨浦上人今の地なりとあり

○地蔵堂



△龜松山徳林寺

本寺河内徳林
 用山空海禪師上人の
 當寺康長建立の記に云
 けらるゝ住持のゆゑを考ふるに
 長きとらる人ありて其基
 たりて神二寺九院と
 大伽藍也西度并徳林寺と
 境内に當寺中層や依八層
 華嚴經に説きゆふ中層十善菩薩を
 藏神也徳林菩薩といふ
 別坊也云々此裏廢せし中
 空身祐禪上人より海
 むりのおゆり成化住持
 〇徳林の四の御画一の
 於二も目くらましくあり



天道宮

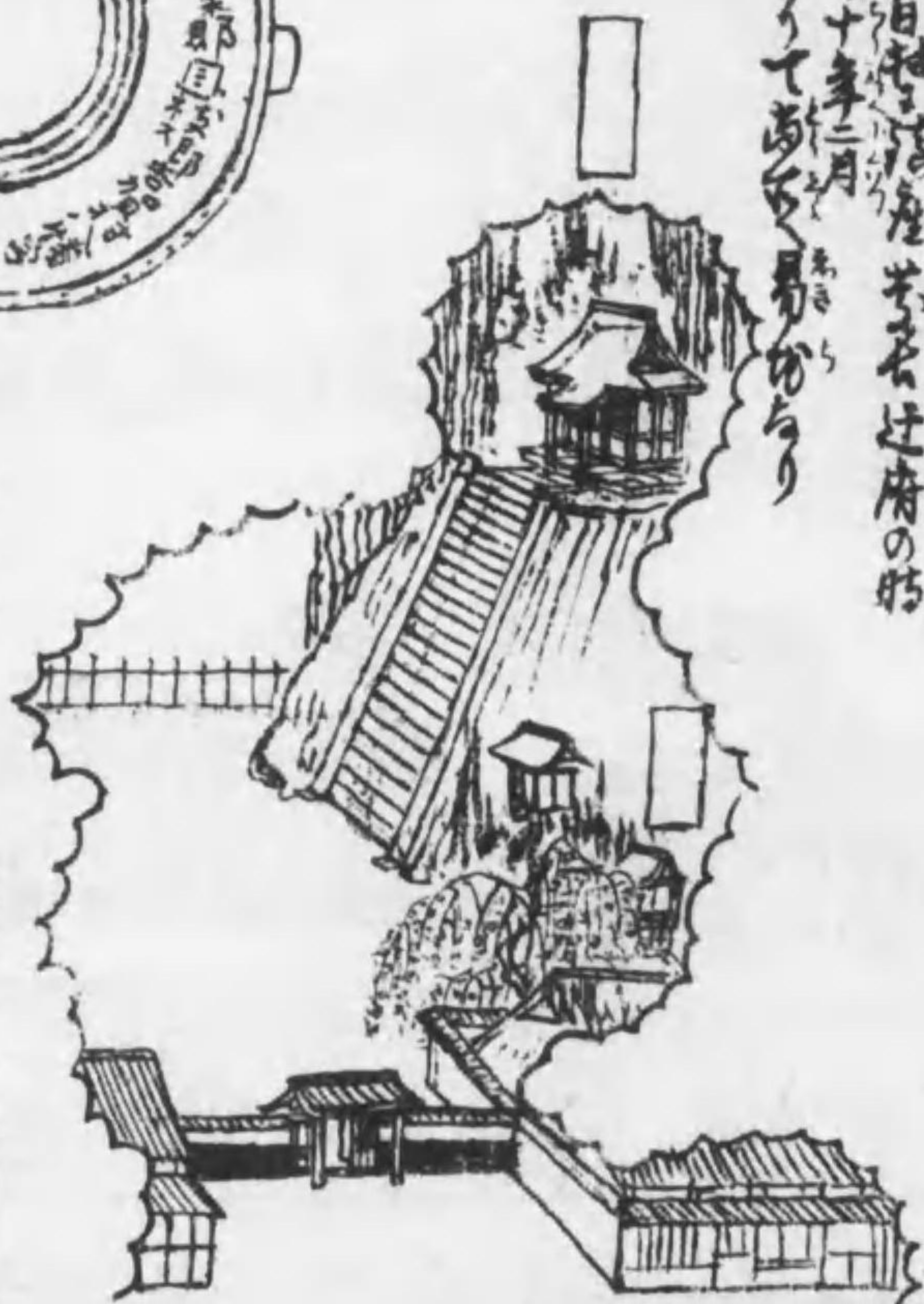
祭神 日神 天照天皇 月神 月夜見尊
 持社 八幡宮 菅田天皇 天皇 天孫
 稻荷社 倉稲御前 惟親社
 清原下之乃日色他
 天孫の御孫に
 因今に於て



石山 鐸口



奉入
長門國豊前郡同校卿吉加貞村八幡宮鐸口
應永三年三月十八日大願主善願白



石山 大乗院 終現
ひり春日井野清次初日村に居る者名は府の形
上より下迄官あり共々十年二月
長門中野寺の所蔵よりてあはれ易かり
○大乗坊社
○香島明神社
○寺々夫

久聖山 清安寺
開山 完卷 月秀上人
本寺 阿波池
老翁 郡南中村古跡の
阿波池堂ありて大破に
なびく久聖氏の代
父清安居士の
善持のふかしの
一寺とて
釋迦堂



△日秀山聖運寺
 同基妙泉院法珠日秀の
 式於今の春人開山覚院
 日真聖人の中真開山
 日治聖人當り
 花車之町に在り
 村万徳寺の末
 法花の在場とある



其時万徳寺より此
 池文を傳ふば此の
 高源院殿の内をみて



高源院殿の内をみて
 昔寺開山武治の春の二子
 本家にて字法隆日真上人の末子とあり
 當寺とま創せり

一法花經一部 御真筆
 高源院殿より内寄附

慈守三千番社 兼多天 稻荷社
 昔寺茅倉由依の匠慈吉田服安石燈

空庫
 上より所秋の内室物殺品入るを多く出れり不知
 法の書量馬也
 佐面坊 兼十



△堀川花壇

日置指より上の方丁の所
花さくらうて橋下のうらた
批るり老若男女老若の遊集
多和路りき城合きり



△日置名物細糸

川口名物
うねり糸も深きね物ひ
茶町
おひねりもやふおれ
いねり細糸

△同積

えんじ町より



△法住山臥性寺

岡山法住山臥性寺上人檀越臥性寺日蓮信女行願院
世有燕田地移を檀越山北前より所用地より移し
方縁の地より
○首神堂
上より下へ引く日蓮依女施主と御奉行

△日置山観福者光明院

中興山観福者光明院
○観音堂
僅ありけり
子息の御守り
一年史実王古化祓主不修失
して今不知

△金塚神明

金塚神明
けり
念佛殿
寺の裏門也下へ
ひり大いそ修業の人念佛を
とるて

△附嶋山万福院

岡山附嶋山万福院
舎を修別一寺と建立夫より作
うり
易地京保の晩年此地より
念小きとありぬ空物
教く徳あり

△恵比次町

室曆六七年の以西の
ては



臥性寺

念仏殿

観音堂

金塚神明

念佛殿

万福寺

△ 護國山東輪寺



護國山東輪寺は、
 同山院正持が三十三世
 中興師として、
 才二世中華子果中五和尚
 漢護國山の類、
 史文十一年の某創天、
 の名を以て、
 舞真に、
 上り、
 中興師と稱せり、
 漢列尾列の惣本山とある。



唐音や
 古蹟八景
 大附日
 涼舟

△ 安三殿ハ

是ハ松平忠房ノ書
以テ江戶ノ御所ニ
廻書スル

上の竹四男ナリシ

まはるをなごらんと

中ぞやあまのこころ

細いわらわに

叶は右まはる殿

すれをばりて

つれづれと二月三日

茶の候とまらふ

茶町

一汁にやゆ

病の死候

はらばりて

百指村



△ 市船

船後の元

むらさき色

空のこの代

ありは年

あふ

いそぐ

うね



△古山菅原

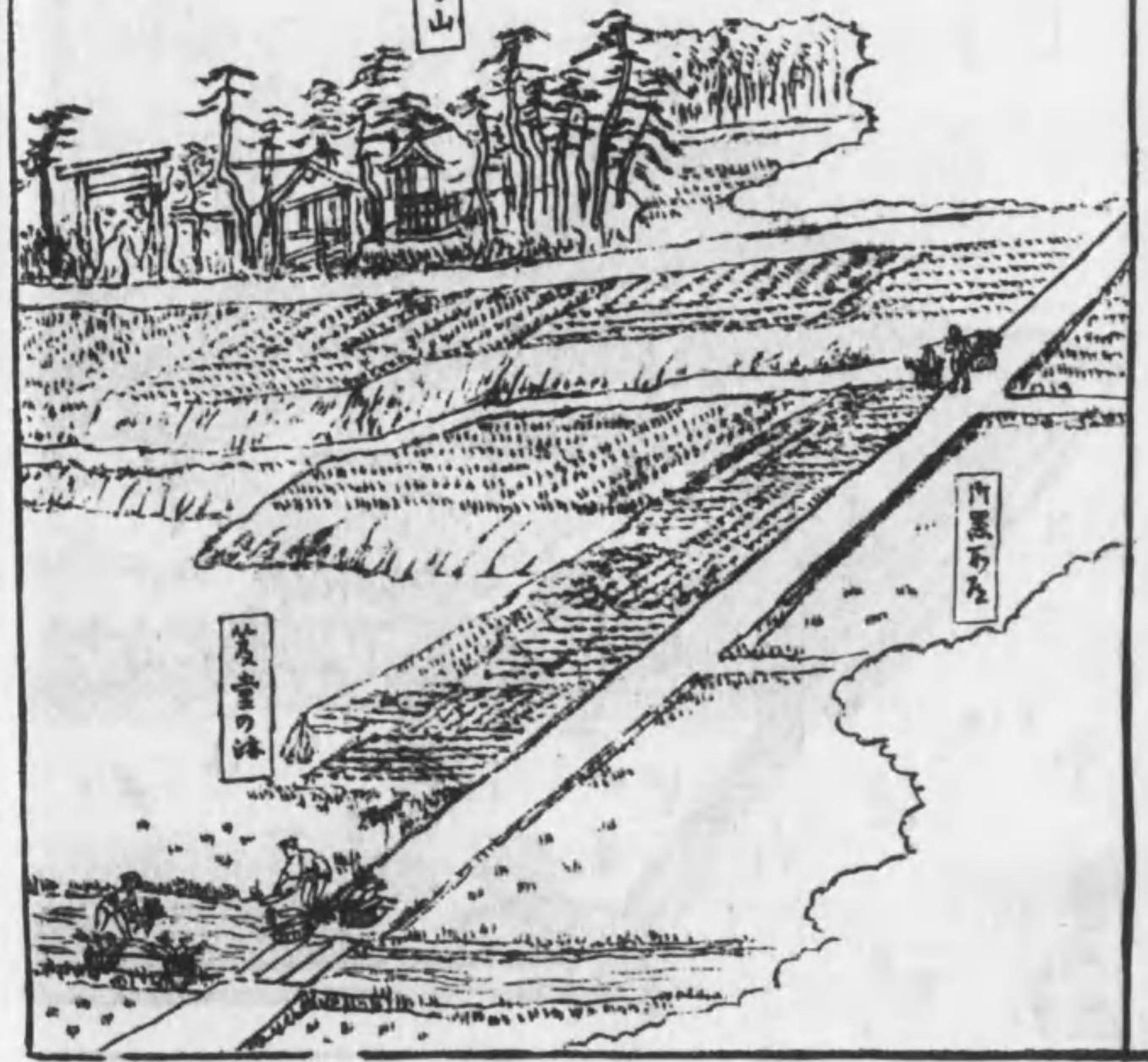
伊勢山は伊勢皇
大神宮と勅請して
正の御祭所とん

△伊勢皇之跡

伊勢皇之跡を履きて
皇土と外の御土増くも
ついで伊勢を以てあまを
皇御所とす

伊勢山

△この神宮
中東あふん



内裏跡

伊勢皇の跡

△龍聖

龍聖を以てつる名は漢
字の三三三の伊勢地より
いかにやをりよ由未

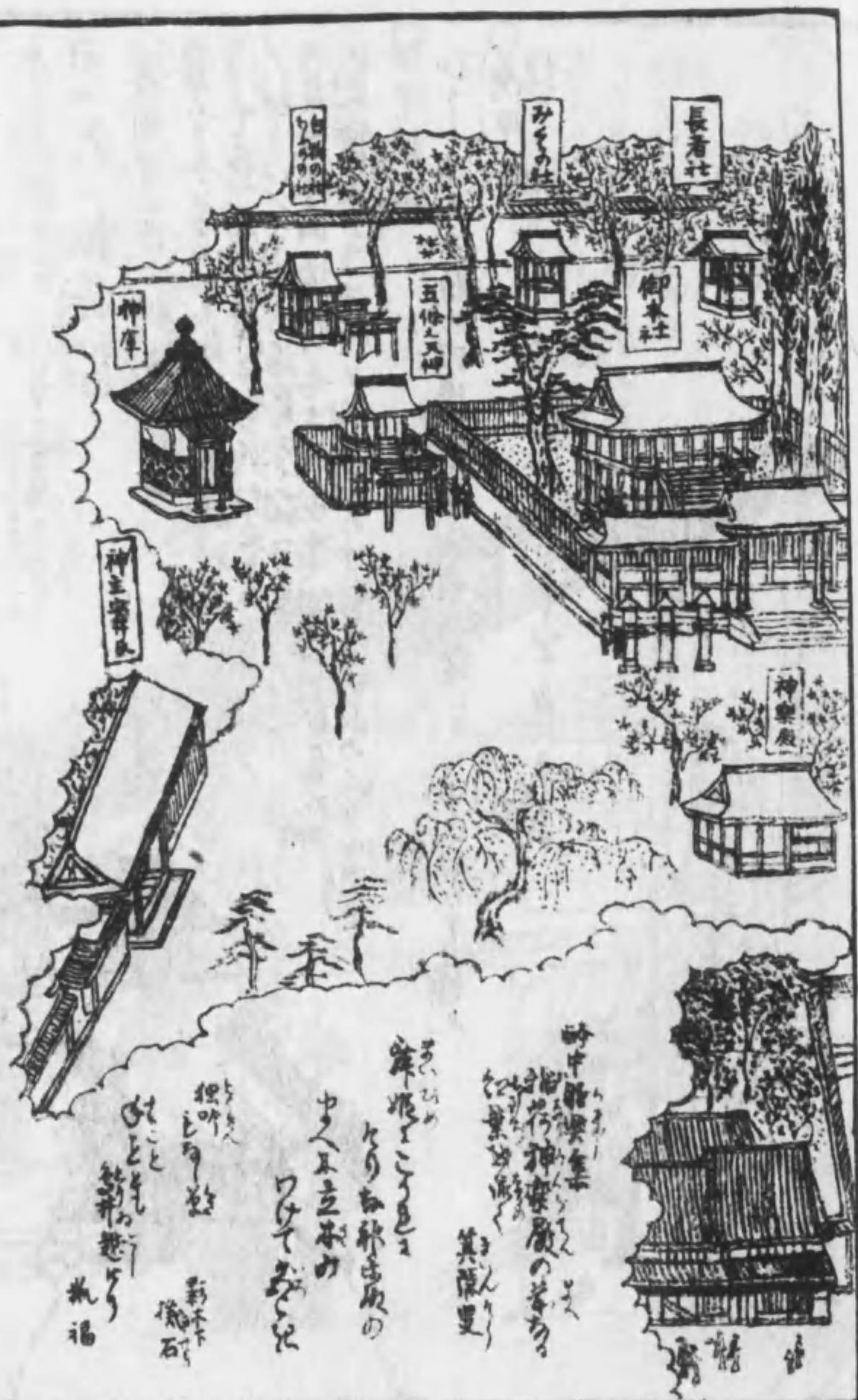
△名古屋三三三の地
何れともかみす地を御部
あるは一説なり

三三三

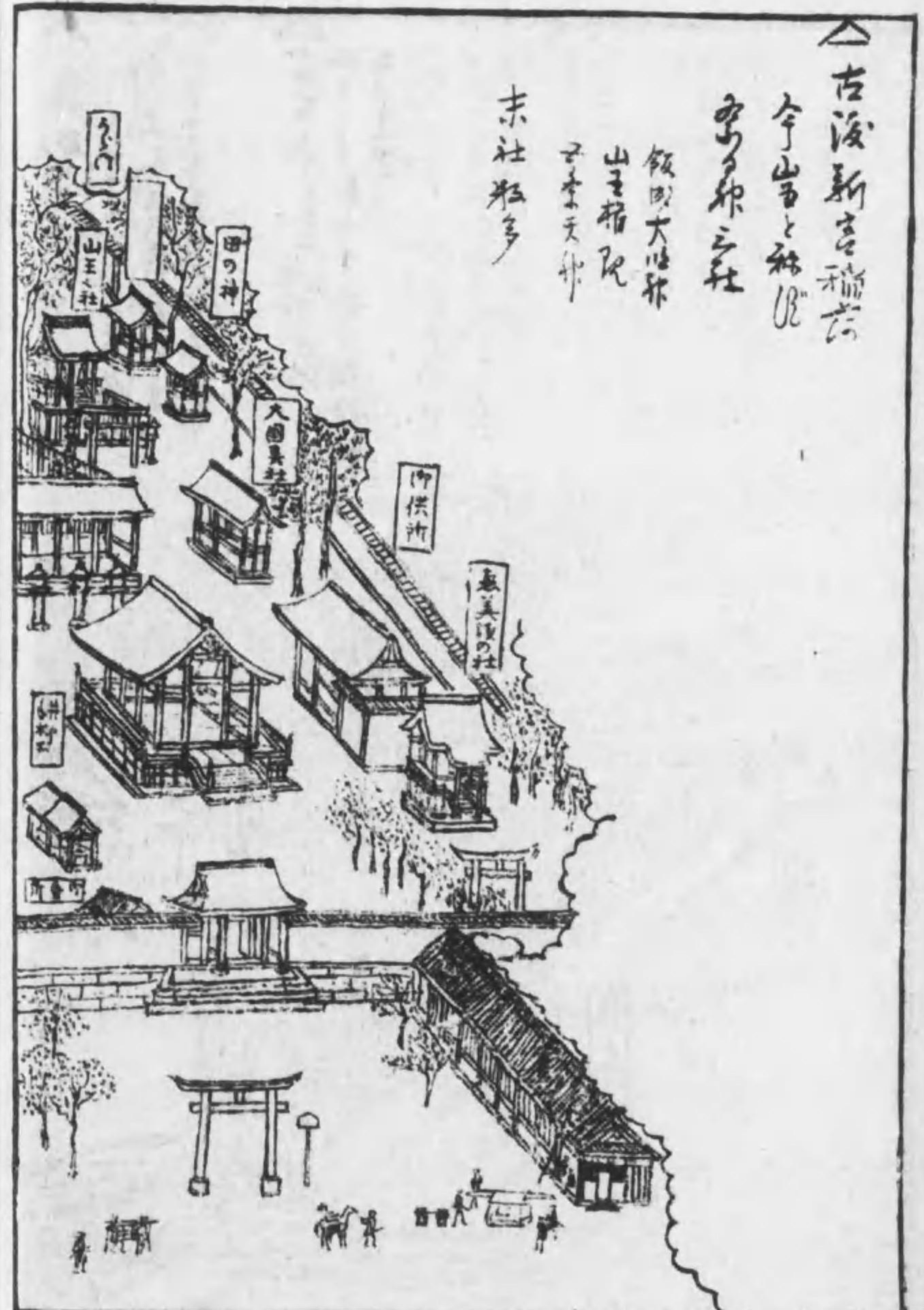
かみす

龍聖





神樂殿
 御本社
 五徳上天
 神庫
 長者社
 神樂殿
 神庫
 御本社
 五徳上天
 神庫
 長者社



△古後新吉福
 今山吉と稱
 末社
 飯田大社
 山王指院
 子木天社
 末社
 御供所
 大國神社
 山王社

△ 花洞山木泉寺

本寺正観世音 作基菩薩正作

洞山別山 益和南

連創者二世 日別 禪東和南

當寺本寺のしむ智一郡の神形不

みけても知観音を修し神子の

大泉院佳山道什居士杖杖同基

以丈母の像を福口と比立尼の姿ありゆれの人まゝ不

田中地蔵

○ 庚申堂



△ 川口屋

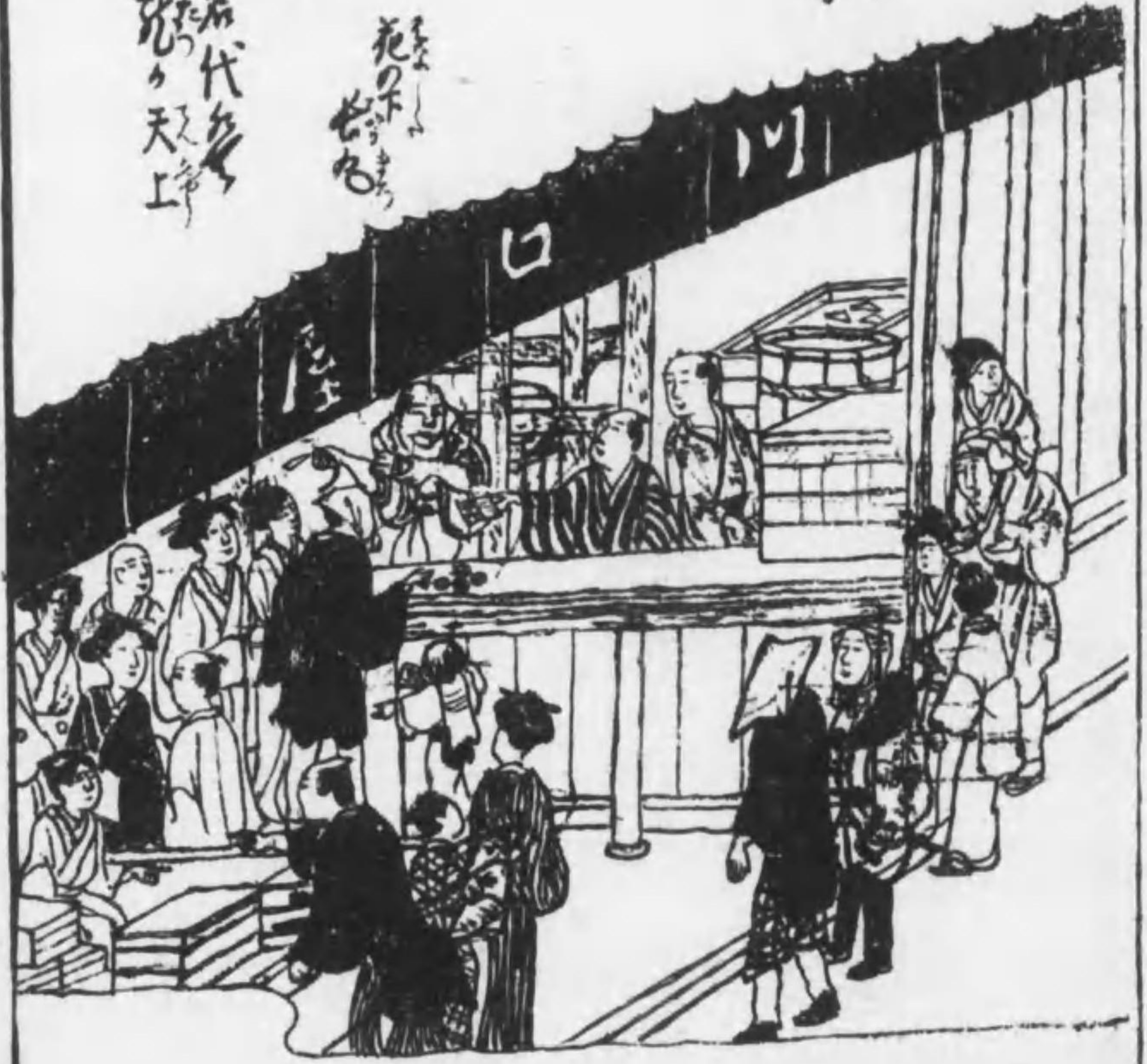
名代給

此店の各古屋

くき色あき 鋤屋

これを遠近の旅人も

表にまゝと



いさやけし

腰束も四掛のキト

雲おあしり免年

自製乃川口

名代

花の下

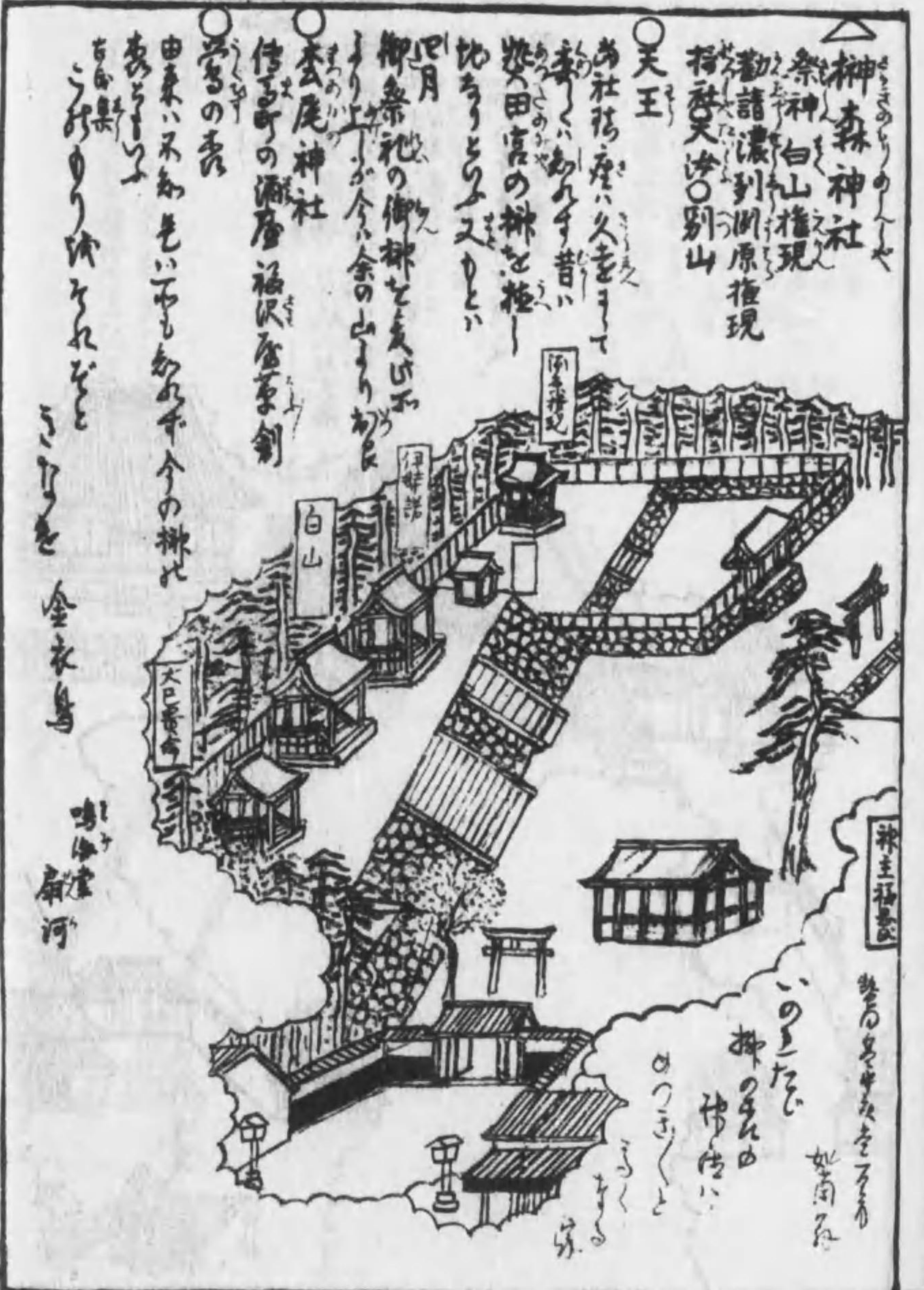
天工



見佛山 雲仙寺

見佛山 雲仙寺
 山日安堂主人 中興日意上人
 此の山は中下瀬町裏万葉寺にあり
 延宝年中に御用地となり 寛文六年
 此地に引くる

△ 雲礼えんま林 一名 雲林
 此の山は中下瀬町裏万葉寺にあり
 延宝年中に御用地となり 寛文六年
 此地に引くる



神森神社

△ 神森神社
 勸請濃利湖原権現
 持社天沙別山
 ○ 天王
 此社秘座久きを以て
 素くいあれず昔ハ
 焚田宮の神を極一
 比ちうとらふ又りとい
 四月 御祭の御神をまじふ
 より上りか今余の山よりあま

○ 雲尾神社
 信守の瀬屋福沢屋原
 ○ 雲の香
 由來は不知もいりあれず今の神は
 表す
 古の神より引くる

金山島 河

神主福巻

此の山の中を穿る
 如南

いのちを
 神のまね
 神のまね
 のつぎと

長壽山妙住寺
 甲基玄隆日及上人五世中興智持隆日啓聖人
 元春昇郡大幸村胡岳山塘林寺とて襟林を
 以破るるびくを天竺より引きて寺山の号を
 改む



体玄寺

後代に古伝の体玄寺に日天子の
 御宇に日影上人が到りてその道徳あり
 大士熱田郡に上宿りて一時市場町の
 うちに憐作田邊とよりの大士と
 那依原より又大士鎌倉と海路に
 此に法衣鎌倉の御宇に日天子の
 を法衣の御宇に法衣鎌倉の御宇に
 きた御宇に法衣鎌倉の御宇に



△ かし塚

結願集云今頃多氏一炊神子
 七曲ふ塚はほとふ合銀亭
 冬村

△ 古塚

山伏づとより上甲く其の田圃も
 山伏塚とつりありやれと云ふ
 本意をに據るうそをわきま
 長いを新法明の古著ありとも
 りふ作しそ此とすもやれり

△ 系清菴

此の系清菴
 悪七を傳の記すとも



△ 久々? 浄塚

尾取次身の社ありと
 松すの社に尾取次身
 社よりなる社あり
 塚の養雲寺に



逆場法師傳

本朝大將... 法師の情を憐れん... 尾張國阿育郡人也... 田原千時天燈... 父雨を討樹下支未... 小児のどり未と... 言我必報汝父... 思富答て云我冷... 沖異見を以て... 沖今なきは... 梅舟と



造り申へ水と盛ん... 得舟天... 及難生男... 相至て... 童子有... 八尺五... 作力足... 師事元... 存影... 童子見... 衆僧... 外... 男影... 寺家... 法師... 八重...



現住
流花

△新考
 佐屋街をいあつて北と
 名古屋北の境をいそ
 ぎより下へ引よ部と
 立てたすの神社
 図をいそすべし

古風集

松かさりまう

半ゆれ

舟とりのり

白羽拍子
 風林子



名陽圖會大尾

新考

尾張名陽圖會の複製に就いて

尾張名陽圖會はその凡例にも見ゆる如く名古屋に於ける神社佛閣又はあらゆる由緒地その他珍奇にして傳ふべき樹石器物或は興味多き昔咄風俗に至るまでこれを精緻なる圖書に著はし何人も居乍らにしてその現状又は往時を目の當り見るが如くならしめん爲に編録したもので寫生を以て名ある猿猴庵高力種信の撰述に係る而して本書の底本は第一巻より第五巻までは同人の自筆であるが同人の他の著述と同じく別に版行の企圖もなかりしものと見え丁數附をも施すことなく時には黒く塗潰すべき處を白き儘に遺して完成を後日に期せるが如き箇所もあり又第六第七の兩巻は自筆本を影寫しこれに目次題簽を加補せるもので恐らくはその高弟小田切春江がこれをなせりと想察せられるものである。

種信通稱は新藏猿猴庵と號し尾州の藩士である居常外に出づる毎に矢立と紙とを懐にし途次物を見れば徐歩し乍らこれを圖して畫稿を作れりといはれ社寺の法會開帳賣物の有様天變地異奇事雜觀等物に觸れ事に遇へば毎に悉く寫生して冊子に收め以て娯となし生涯寫す所頗る多く著述數十種に及ぶ本書もまた正にその一であつて想ふにその最も苦心を積んで集成の功を成したものであらう本書の記事は名古屋のみに限れるも後の尾張名所圖會の先驅をなせるもので既に今日全く湮滅に歸してその面影をすら

窺ふに由なき社寺舊家初め種々の状況を記すること甚だ詳密を極め郷土史料としては決して看過すべからざる好適の良著である。

皇曆こゝに光輝ある紀元二千六百年を迎へ本會また適、創立以來その第三十年に當る。乃ち聊かこれを記念せんが爲に本書の複製を圖り、本書の舊藏者山脇隆六氏より明治二十七年三月譲受けられたる現在の所藏者水野宇右衛門氏の快諾を得、底本を原寸大にオフセット版に上せ、表紙題簽の如きも主として原本の體裁に従ひ、一にその面目を存してこゝに新しく出版するに至つた。内容に就いての詳細は本書の凡例に譲りてこれを省き、今は唯本書の略解説と複製の始末とを述べるに止める。

昭和十五年七月七日

名古屋史談會

昭和十五年七月七日印刷
昭和十五年八月十五日發行

(非賣品)

編輯兼發行者 名古屋史談會
代表者 名古屋市中區外堀町二丁目四番地 黒川 耕作
印刷者 名古屋市中區千早町五丁目十六番地 中尾 五郎
印刷所 名古屋市中區千早町五丁目十六番地 株式會社 一誠社
發行所 名古屋市中區南大津通二丁目四番地 名古屋史談會

刊行二百部
第 號

307
82

五部
五部
五部
五部

終

